

多様な視点を伸ばす系統的歴史学習の試み

—授業実践を踏まえての考察—

今 井 修 浪岡町立本郷小学校

要旨

小学校6年生における社会科の授業実践を通して、系統性を追求した歴史学習の有効性について論じてみた。

小学生(6年生)にとっての歴史学習は、それまでの社会科学習とは異なり、自体験がなく初めて触れる事柄が多く、意欲・関心を抱く反面、新たな知識を自分のものとするのが大変である。本論では、系統的学習は、子どもにとって一つの身近なテーマである歴史キーワードを用いて時代を探ることで、意欲・関心を持ち、わかりやすく取り組めることを述べた。さらに、系統性を追求することで、子どもの多様な視点を伸ばすことになる。歴史キーワードは、時代間を比較する一つのものさしの役割を持ち、子どもの自主性を伸張することにも繋がる。これらの可能性について、系統的歴史学習による歴史キーワードの活用方法、時代間の繋ぎ方の工夫を基本とする実践例を紹介した。

【キーワード】 系統的歴史学習 歴史キーワード 時代間の関連性 多様な視点

1 はじめに

本論文で述べている歴史キーワードとは、時代間を比較する一つのものさし(本研究では食べ物)のことであり、その歴史キーワードを通して各時代間の移り変わりを調べていく学習が、系統的歴史学習である。尚、それぞれのより具体的な定義と教育上の意義については後項で述べさせていただく。

小学校6学年で学習する歴史分野は、児童が意欲・関心を抱き、自ら意欲的に取り組む分野としては最適であると思われる。ところが、時代が進むにつれてその意欲・関心が減少しているように感じられることが多い。佐藤正志¹⁾は、「(歴史的な内容の学習は)他の社会科学習と違って、学習対象となる出来事を直接見たり、聞いたりすることが出来ないということです。もちろん、それにかかわった人々と会って話をする事ができません。そうした過去の出来事を学習対象にするところに、歴史の学習の面白さと難しさがひそんでいるのです。」と述べている。

これまでの実践を通してその原因を探求してみると、時数の確保や内容の進度等の理由が挙げられるが、主として、各時代間の関連性の欠如にあると考えられる。おかげで、各時代の大きな内容は知り得ても、時代毎の比較や統一性に関する視野が育っていないのが現状である。そのことが、理解不足に陥り、さらに意欲減少に至っているのではないかと²⁾。佐藤も、「一人ひとりの子どもが想像力を十分に発揮し、知的好奇心を満足させるような学習をすすめたいものです。」と述べている。その知的好奇心を揺さぶるのが、児童にとって身近な歴史キーワードである。しかし、同時に佐藤は、「6年生の学習では、日本の歴史について通史的・網羅的に扱うことは避けなければなりません。そうした学習は、どうしても知識中心の表面的な学習に終わってしまうからです。」とも述べている。

本実践は、通史的な試みではあるが、知識中心の学習に止まるのではなく、逆に思われ児童自身がイメージを膨らませ、広い視野に立ち自己解決力を高められる学習法であるとする。谷川彰英³⁾は、「私自身小学校6年生を対象にしてみようと思うことだが、6年生というのは社会科の授業で最も深く追求できる子どもたちなのではないか。」と述べている。

本研究では、児童にとって身近な歴史キーワードを一つ取り上げ、時代の移り変わり（系統性）をつかみながら学習を進めることで、児童の歴史学習に対する意欲・関心を向上できるのではないかと考えてみた。そこで、系統的歴史学習の有効性や歴史キーワードの活用法について、実践を通して考察したい。

2 系統的歴史学習

2-1 研究の目的

- 子どもの視野を広める、系統的歴史学習の有効性について研究する。
- 子どもの学習を補助する、歴史キーワードの活用法について研究する。

2-2 研究の対象

平成14年度6学年 男子5名 女子4名 計9名

2-3 研究の方法

(1) 歴史キーワードの定義

歴史キーワードの定義をつぎの5項目にまとめてみた。

- ①子どもにとって身近なものである。
- ②各時代を網羅でき、広がりがあるものである。
- ③子ども自らが、情報を収集できるものである。
- ④作る・触れる・見るなどの体験活動を可能とするものである。
- ⑤現代と比較できるものである。

(2) 歴史キーワードによる系統的歴史学習とその方法

子ども自身が歴史キーワードを設定し、各時代における歴史キーワードに関する事項を調べ、まとめる。

- 全体学習では、その時代の流れや特徴・様子などをつかむ。
- 個人（もしくはグループ）学習では、歴史キーワードについて取り上げ、さらに深めていく。
- 次の時代に進めていく上では、同じ歴史キーワードを取り上げ、時代間の系統性や発展性等について留意させていく。

(3) 歴史キーワード「食べ物」の実践授業

①歴史キーワード「食べ物」の学習展開例と一般的な学習展開例の比較

系統的歴史学習の展開例	指導書に則った一般的学習の展開例
<p>①徳川家将軍の顔立ちが徐々に細面になった原因を追及する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初代将軍家康と13代家定の顔立ちの違いの原因から、幕府の権力の大きさを測る。 ・細面の顔立ちは、現代人に相通ずるものがあり、原因は、栄養価が高く、やわやかい食事にあることを知る。 	<p>①大名行列が行われた背景を調べ、将軍の力に着目して学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参勤交代の様子を探る。 ・家光がどのように幕府の力を強めて行ったか、調べたいことを発表する。 <p>②家光は、どのようにして大名をしたがえていったのかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大名統制について調べる。 <p>③家光は、どのようにして村人や町人などを</p>

- (現代っ子食は現代版将軍食)
- ②食事を通して身分差別を調べる。
- ・農民の食事の中味から、農民に対して厳しい規制が行われていたことに気付く。
 - ・町人の間で外食が流行したことから、江戸の街の発達や文化の隆盛を探る。
 - ・大名の日常生活や参勤交代の様子を調べる。
 - ・米一揆の様子から、幕府の政策や幕末の様子を知る。
- ③食事の違いから、明治時代の特徴を調べる。
- ・牛鍋屋での食事様子を参考に、江戸時代との変化を探る。
 - ・様々な新しい食品が普及した原因を探り、鎖国と開国（文明開化）の流れを考える。
- ※鎖国政策のためとりいられなかった西洋の料理や食品、食習慣が政府や上流階級で広まった。やがて、庶民にも流行した。
- ・食べ物の他に、新しく普及したものを調べる。
- ④トウゴウビールの誕生を知る。
- ・トウゴウとは何か、なぜ外国人が笑顔で飲んでいるのかを知る。
 - ・東郷が活躍した戦争について調べる。
- 支配したかを調べる。
- ・身分制度とは、どのようなものなのかを、調べて発表する。
- ④家光は、どのようにしてキリスト教を禁止したのかを考える。
- ・キリスト教が禁止になった理由を考える。
- ⑤鎖国の間、海外との交流はどのように行われていたかを調べる。
- ・江戸幕府が力を強めたことをまとめる。
- ⑥伊能忠敬は、どのようにして地図を作ったのかを調べる。
- ・伊能忠敬について発表し合う。
- ⑦新しい学問は、どのようにして広がったかを理解する。
- ・杉田玄白らは、オランダの医学書をどのようにして翻訳したのかを考える。
- ⑧歌舞伎は、人々の間に、どのようにして広がっていったのかをとらえる。
- ・歌舞伎や能で演じられたものや支えてきた人について調べる。
- ⑨浮世絵は、人々にどのような楽しみをもたらしたのかを調べる。
- ・墨絵と浮世絵を比べて、疑問に思ったことを発表し合う。
- ⑩新しい時代に向けて、どのような動きがあらわれてきたかを調べる。
- ・打ちこわしや一揆の原因を調べる。
 - ・新しい学問を学んだ人々は、幕府の政治をどのように思ったのかを考える。
- ⑪新しい世の中は、どのような人々によってつくられていったかを調べる。
- ・明治維新について調べたい問題をつくる。
- ⑫明治維新の諸改革や若い武士たちの働きについて調べまとめる。
- ・明治政府の改革の内容や、それまでとの違いを調べる。
- ⑬文明開化により、どのように社会が変化したのかをとらえる。
- ・文明開化の内容と変化について調べる。
- ⑭富国強兵政策について、人々はどのように受け止めていたのかをとらえる。
- ・政策の内容と問題点を話し合う。
- ⑮自由民権運動が広まっていったことをとらえる。
- ・自由民権運動が起こった背景とめざしたものを調べる。

<ul style="list-style-type: none"> ・日清、日露戦争の様子を調べる。 <p>⑤米騒動が起きた情勢を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成金の誕生の背景と世界大戦の関わりを探る。 ・自由民権運動が起きた背景を知る。 <p>⑥家庭への西洋料理の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関東大震災と東京の復旧、発達の様子を知る。 ・都市と農村との格差から戦争への流れを調べる。 ・朝鮮人への迫害が行われていたことを知る。 <p>⑦江戸時代と明治時代の系統性をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの時代の要約化と関連性をまとめる。 	<p>⑩国会開設と憲法発布を調べ、現在との内容の比較をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・憲法の内容や国会の制度について調べる。 <p>⑪不平等条約による問題について考え、学習問題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノルマントン号事件の背景を調べ、条約改正に向けての政府の対応を調べる。 <p>⑫日清・日露戦争の二つの戦争について調べ、条約改正との関係をとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの戦争の原因と結果を調べ、その後の日本への影響をまとめる。 <p>⑬二つの戦争後の朝鮮の植民地化を知り、朝鮮の人々の思いを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮の支配下の過程を調べる。 <p>⑭日本の工業の発展を調べるとともに、民主運動を求める運動があったことをとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業の発展とそのひずみを調べる。 ・米騒動について考える。
---	---

②子どもの活動（本授業では、個人および小グループ活動の併用）

- 一人ずつが、各時代における食事に関する資料を調べる。
- その資料の背景や原因、時代間の相違点を知る。
- それぞれ課題を作り、予想を立てる。
- （類似した課題の）グループ毎に、解決手段を探り調べる。
- 発表後に各自がまとめを行い、さらなる課題や疑問を作る。

③教師の指導

- 資料収集や解決手段の補助もしくは提示し、キーワードに着目させる。
- 資料の関連性や内容について補助もしくは教授する。
- 課題作りへのアプローチを行う。
- 子どものまとめを生かしながら、さらに必要事項を付け加える。

実際の授業は、上記のように行われた。子どもにとっては、初めての学習方法ということもあり、最初はとまどいながらの活動であった。食べ物というキーワードには関心を抱いたが、系統性については難しかったようである。

そこで、江戸・明治時代に関する資料を全て一同に並べて見たところ、徐々に流れに気づき始め、その後の活発化に繋がっていった。資料の収集は教師の補助が必要であったが、課題作りに関しては積極的に行われ、すぐに見通しを持つ子供が多かった。これも、一つの指針であるキーワードがしっかり明確化されていたからであることが、子どものアンケートからも言える。自己力でできたという達成感と同時に喜びも味わえたようである。

また、総合的な学習とは異なり教科であるため、子どものまとめで終止するのではなく、知識の補助をすることも必要であった。

2-4 系統的歴史学習の意義

系統的歴史学習及び系統的歴史学習の教育上の意義をつぎの5項目にまとめてみた。

- ①子ども自身が歴史キーワードを選択することで、意欲・関心の高まりに繋がる。
- ②歴史学習では重要とされている様々な事象を縦と横の観点から検討することが実践され、さらなる多様な視点が育成される。
- ③認識が定着しやすく、学習態度の育成が容易である。
- ④自己解決力や情報収集力・分析力などの総合的な学習力が育成される。
- ⑤触れる・作る・見る・食する等の幅広い体験学習が可能となり、発展性を持っている。

3 歴史学習に関する実態調査と考察

3-1 実践授業前の調査結果

(1) アンケート1

- ① アンケート実施日 平成14年 9月17日(火)
- ② 抽出方法 アンケート用紙への本人記入の後に回収(回収率100%)
- ③ アンケート内容および結果

1	歴史学習の感想を書いてください。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> 〈回答〉 <ul style="list-style-type: none"> ・日本の歴史がいろいろとわかる。 ・5年生までの社会科よりもおもしろい。 ・歴史人物を知るのが好き。たくさんの人物が出てくるから。 ・興味があることがいっぱいある。 ・人物や出来事の名前を覚えるのが大変。 ・なかなか覚えられない。 ・いっぱいありすぎる。 ・調べるのが大変。
2	一番好きな時代は、何時代ですか？また、その理由は？ <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> 《安土・桃山時代》2名および《戦国時代》1名 <ul style="list-style-type: none"> ・3人の武将が活躍した時代だから。 ・好きなアニメの時代が戦国だし、織田信長に興味があるから。 《江戸時代》2名 <ul style="list-style-type: none"> ・一番長く続いたから。 《平安時代》2名 <ul style="list-style-type: none"> ・女性が活躍しているから。 ・文字があるから。 ・知っている人物がたくさんいるから。 《室町時代》1名 <ul style="list-style-type: none"> ・ギリギリの俳句が好きだから。
3	逆に、一番好きではない時代は？また、その理由は？ <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> 《古墳時代》2名 <ul style="list-style-type: none"> ・人を埋めたり、嫌な話が多いから。 ・人を物のようにこき使うから。 《弥生時代》2名 <ul style="list-style-type: none"> ・日本が、中国より遅れていることばかりあるから。 《明治時代》2名 <ul style="list-style-type: none"> ・いろんなことがあって覚えにくいから。 《江戸時代》1名 <ul style="list-style-type: none"> ・戦国時代に比べると、一揆など難しいことばかりだから。 《戦国時代》1名 <ul style="list-style-type: none"> ・争いごとばかりだから。

《無回答》 1名	
4	歴史学習をして、自分のためになったこととは何ですか？（複数回答可）
<p>〈回答〉・人の顔を覚えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本で活躍した人が分かった。（2名） ・いろいろな物を作った人が分かった。 ・いろいろな歴史上の人物が何をしたか分かった。 ・日本の昔のことがわかった。 ・無回答（1名） 	
5	歴史学習では、どんなことをやってみたいですか？（複数回答可）
<p>〈回答〉・土器を作ってみたい。（3名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦について調べてみたい。 ・金閣寺を見てみたい。 ・無回答（4名） 	

歴史とは過去の事象ではあるが、児童にとっては体験のない未知のことであり、新しい知識なのである。児童の「歴史人物を知るのが好き。」や「興味があることがいっぱいある。」から、新しい知識を得るということは、児童にとって意欲・関心を増幅させる行為と言える。5学年までの社会科では、自分たちの既習事項や体験済み事象について探る学習が多い。つまり、新しい知識を得るという行為は、（地域差によるが）なかなか味わえない。

反面、「人物や出来事の名前を覚えるのが大変。」や「調べるのが大変。」からもわかるように、歴史学習における新しい知識を理解するという行為は、児童にとっては予想以上に負担が大きいことがわかる。5学年までの社会科は、自分たちが知っている、予想できる事象ばかりのために、歴史学習と比較した場合負担が少ない。さらに、児童にとって意欲・関心を増幅させてくれるもう一つの行為である体験学習が、実施しやすい面もある。得ると理解するの狭間に、歴史学習の問題点が隠されていると思われる。

児童にとって好きな時代とは、

- ①「好きなアニメの時代だから。」のように、
 - ・自分の好きな出来事や物がある時代
- ②「知っている人物がたくさんいるから。」
 - ・自分が、何らかの形で（学習前から）知っていた時代
- ③8人中4人が「戦国、江戸、明治時代」ということから、
 - ・学習後の時間経過が少ない時代

であると考えられる。新しい知識により、学習意欲向上につながっていることが少ない。出来事は知り得ていても、時代についてのイメージが確立されていないためである。

3について

2と同様に、イメージがなされていないことが窺える。児童にとって好きではない時代とは、

- ①「人を埋めたり、嫌な話が多いから。」「争いごとばかりだから。」から、
 - ・自分の好きな出来事や物が無い時代

②「いろんなことがあって覚えにくいから。」「戦国時代に比べると、一揆など難しいことばかりだから。」から、

・学習を通して、自分にとってわかりにくい（わからない）時代であると考えられる。新しい知識を得るという行為が成立されていないためではないか。

4と5について

「人の顔を覚えた。」「いろんな物を作った人が分かった。」「日本で活躍した人が分かった。」「いろんな歴史上の人物が何をしたか分かった。」のように、新しい知識を得るに止まっている。それも、人物に限定されている。新しい知識である過去の事象を、自分にとって身近なものとしてとらえておらず、身に付いていない。

無回答は、今後の歴史学習への興味・関心にも影響を与えることが考えられる。歴史学習への主体的な態度を抱かせる必要がある。そのためには、

- ・時代内や間のイメージを抱くこと
 - ・主体的な課題と解決手段を抱くこと
- が考えられる。

(2) アンケート2

歴史キーワードを用いる学習により、わかりやすく時代間の系統性を追求することができ、新たな知識を得ると共に、多様な視点を育む学習が系統的歴史学習である。

例を挙げると、江戸時代と明治時代の移り変わりを学習場面がある。教科書では、外国からの要請により長い鎖国時代に終焉を遂げ、西洋文化を規範とする政治・生活が行われるようになったとある。本研究の授業実践前と後に、研究対象の子どもに、「江戸時代・明治時代とはどのような時代であったか」という課題を与えて、書かせた回答（複数回答可）を紹介する。

	一般的な学習展開例	系統的学習展開例
江戸時代	<ul style="list-style-type: none"> ・長く続いた時代。(2名) ・ペリーが来航し、開国をした時代。(2名) ・主に、徳川家が活躍した時代。 ・鎖国していた時代。(3名) ・土農工商で身分差別があった時代。(2名) ・伊能忠敬が地図を作った時代。 ・一揆が多い時代。 ・ザビエルが日本に来た時代。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身分によって食べ物が違った。しかし、だんだん町人などはそばや天ぷら、すしなどの屋台でいろんな食べ物を食べられるほど江戸はさかんになった。他には、歌舞伎や浮世絵などもはやってくるようになった時代。 ・ペリーが来るまでは、日本では鎖国のせいであまり外国の食べ物が食べられなかった。食べられるようになったのは、明治時代になってからだ。 ・將軍は顔の形が変わるほどやわらかく豪華なものを食べていた。しかし、農民は自分たちで作っても食べられないくらい貧しかった。だから、米一揆が起こった時代。 ・將軍の細面顔のところが、現代人と似ている。これは、幕府の力が強くなり、たくさん良い物を食べていたからだ。だから、逆に農民が弱かった時代。幕府の力が強かったので、長く続いた時代。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自由民権運動が起こった時代。(2名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代とちがって、外国の食べ物が食べられるようになった時代。これは、鎖国が終わり、文明

明治時代	<ul style="list-style-type: none"> ・牛肉を食べ始めた時代。 ・ヨーロッパなど外国の文化が流行った時代。 ・西洋の物は良いとされていた時代。 ・五人の政府がいた時代。 ・幕府が政権を朝廷に返した時代。幕府が倒れた時代。 ・ペリーによって開国した時代。 ・選挙が生まれた時代。 ・医学の本が出版された時代。 	<ul style="list-style-type: none"> 開化が始まったため。そのため、たくさんの食べ物を食べられるようになった時代。 ・牛肉を食べられるようになったのは、鎖国が終わったから。さらに、江戸時代に比べると、明治時代はお金があれば普通の人も牛肉などを食べられたから、身分制度は弱くなった時代。他にも、たくさん外国から文化や技を集め、国が豊かになった時代。 ・日本人の名前のビールができるほど日本の力が強くなった時代。これは、女性がきびしい生活をしてながらたくさん働いたため。あと、条約改正で外国と平等に話ができるようになったから。しかし、そのせいで朝鮮の人からにらまれるようになった。 ・お米のせいで、成金というお金持ちが生まれた時代。これは戦争のために買い占めて高く売ったからです。おかげで、農民は高くても米が買えず米騒動を起こした。江戸時代の米一揆に似ている。 ・関東大震災のせいで東京は壊れたけど、その後の復興で、ふつうの家庭でも洋食が食べられるほど豊かになった時代。でも、その地震のせいで、理由もなくたくさんの中国や朝鮮の人が殺された時代。
------	---	---

一般的な指導法では、一つ一つの出来事に関しては、新しい知識を得ることがなされているが、反面、一つの事象のみのイメージでしか表現できていないことがわかる。また、前時代間との変化や差がわからないために、何時の時代の出来事かを理解していない。同じ物差しで比較していないため、類似点や相違点が明確に出来ないためである。そのため、自分の言葉でまとめることができない。

系統的学習法では、同時代内・異時代間での変化や差をはっきりと記述していることから、歴史キーワードというものさしを使って学習することは、時代の系統性を育成する上では有効であると言える。

また、まとめた内容の量からもわかるように、児童にとって身近な「食べ物」というキーワードを用いることは、意欲・関心を向上させる上でも有効であると言える。

3-2 実践授業後の調査結果

(1) アンケート1

- ① アンケート実施日 平成14年11月12日(火)
- ② 抽出方法 アンケート用紙への本人記入の後に回収(回収率100%)
- ③ アンケート内容および結果

1 キーワードを使った歴史学習についてに感想を書いてください。(複数回答可)

〈回答〉・自分の言葉で、自分の力で明治・大正時代を説明できることができたからうれしかった。

- ・自分の好きな言葉、わかる言葉でまとめられるからよかった。(4名)
 - ・同じキーワードで勉強していくので、流れがわかりやすい。(3名)
 - ・教科書にないことまでわかって楽しい。
 - ・食べ物だけで時代を調べられるのにはビックリした。
 - ・他のキーワードでもやってみたい。
 - ・今自分が食べている食べ物が、そんな昔からあったのがふしぎだ。
 - ・自分が好きなカレーライスで時代が分かるのは楽しい。
- ・自分の力で学習するのは良いと思うけど、ちょっと最初はなれないから大変だった。

2 歴史学習では、どんなことをやってみたいですか？ (複数回答可)

- 〈回答〉
- ・昭和時代も、食べ物を使って調べてみたい。(5名)
 - ・今度は、違うキーワードで時代を調べていきたい。(3名)
 - ・縄文時代から昭和時代まで、同じキーワードで調べてみたい。
 - ・服装で調べてみたい。特に、平安や戦国時代など。(2名)
 - ・実際に、その時代の食べ物を食べてみたい。作ってみたい。(3名)
 - ・今の食べ物と比べてみたい。
 - ・お金で調べてみたい。今までどのくらいの種類のお金が作られたのか。

「他のキーワードでもやってみたい。」「教科書にないことまでわかって楽しい。」から、歴史キーワードを用いて新しい知識を得ることが、意欲・関心の高まりに結びついていると言える。また、「今自分が食べている食べ物が、そんな昔からあったのがふしぎだ。」「自分が好きなカレーライスで時代が分かるのは楽しい。」からもわかるように、現代と比較できるキーワードの活用が、自然と歴史を身近なものにとらえさせ、さらに意欲・関心を高めているとも言える。他の時代やキーワードへの取り組みを自主的に希望するなど、発展学習への布石にもなっている。

「自分の言葉で、自分の力で説明できた。」「自分の好きな言葉、わかる言葉でまとめられた。」から、キーワードを用いることで、児童の自己解決力や情報分析力を育成する補助となっていることがわかる。当たり前ではあるが、自力課題解決がなされたことは達成感を生み出す最大の要因である。

「同じキーワードで勉強していくので、流れがわかりやすい。」「教科書にないことまでわかって楽しい。」から、児童にとって負担である時代の流れの認識が定着しやすいといえる。

反面、「最初はなれないから大変だった。」からもわかるように、必ずしも「学習態度の育成が容易である。」とは言えなかった。

(2) アンケート2

授業実践後、子どもに、歴史キーワードに対するアンケートを書かせた内容を紹介する。

① アンケート実施日

平成14年11月 6日(水)

② 抽出方法

アンケート用紙への本人記入の後に回収(回収率100%)

③ アンケート内容および結果

1 歴史キーワードを使った学習を受けての感想は？	
<ul style="list-style-type: none"> ・ちょっと時間がかかったけど、題があったから書きやすかった。 ・他の出来事（大地震や戦争など）が、食べ物に共通しているとは思わなかったので、驚いた。 ・食べ物を勉強して、当時の人がどういう風に生活していたか、今とどのように違うかがよくわかった。 ・思ったより楽しかった。食べ物が、言葉や事件に関係しているとは思わなかった。 ・キーワードがあると、教科書と違う視点でわかりやすく、まとめやすかった。 ・初めは面倒だったけど、それと同時にわかったことがいっぱいあったので良かった。 ・時代の変化がわかりやすかった。（身分制度の違いなど） ・覚えやすかった。全てに食べ物が関わって、時代の移り変わりとともに食べ物も変化していくから。 ・まとめるのが苦手だったから歴史学習は大変だけれど、キーワードがあったからいつもよりは楽だった。 	
2 今後学習してみたい歴史キーワードはなんですか？ (複数回答可)	
<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物 4 ・服装 4 ・流行した物 3 ・乗り物 2 ・遊び道具 2 ・家 2 ・文化、伝統物 2 ・生活用品 2 ・その他（髪型、飲み物、スポーツ、トイレ、文字、言葉、筆記用具、武器） 	
3 身近な地域（学区や町内）において、調べてみたいキーワードはありますか？	
<ul style="list-style-type: none"> ・りんご 5 ・凧（本郷凧） 4 ・学校 2 ・米 ・川 ・建物 ・乗り物 	

アンケート1の「他の出来事（大地震や戦争など）が、食べ物に共通しているとは思わなかったので、驚いた。」や「食べ物が、言葉や事件に関係しているとは思わなかった。」という回答から、歴史キーワードを与えることが、「新しい事象を知る」という歴史学習の醍醐味をさらに増幅したことがわかる。

また、「教科書と違う視点でわかりやすく、まとめやすかった。」や「時代の変化がわかりやすかった。」「全てに食べ物が関わって、時代の移り変わりとともに食べ物も変化していくから。」などから、各時代に網羅された一つのキーワードを提示することで、わかりやすく広い視野を育成することになることがわかる。

アンケート2や3から、歴史キーワードは、児童にとって身近なものの方が、意欲・関心を生み出せると言える。

4 おわりに

総合的な学習が完全実施され、教科の役割の確認と整備が急務となってきた。総合的な学習と大きく関わりを持つ社会科では、その存在自体が将来的に不安視されている。その原因としては、社会科でのねらいと総合的な学習のねらいの相違の明確化が曖昧になっていることが挙げられる。教科の基礎・基本の定着が掲げられている今日、社会科としてもねらいをしっかりと明示し、定着に向けた指針を示す必要がある。

そもそも系統的歴史学習のねらいは、子どもに興味を抱かせ、わかりやすく歴史の流れ

を示し、自主的な学習を推進することにある。特に、多様な視点を育むためには、すぐれた学習法であると考えられる。

系統的歴史学習がねらい通りの成果を上げるためには、年間を通した指導計画作成や資料収集と教材化などの準備に時間がかかり、多くの教師による情報交換・情報の蓄積の環境が必要である。歴史学習で問題となるのが、内容の精選と時数の問題である。内容の精選ができなければ、今まで以上に負担が大きく、計画的に実施されないことになってしまう。また、さらなる意欲・関心を高めていく上で、歴史キーワードに郷土が適していることが、児童のアンケートからも裏付けされている。

引用文献

- 1) 佐藤 正志 (1993); 授業技術実践シリーズ10 「歴史を体験する授業」
国土社, pp. 1~7
- 2) 今井 修 (1996); 「食べ物を通して各時代を関連付ける」
社会科を語る会研究集録, pp. 2~14.
- 3) 谷川 彰英 (1990); 楽しく学べるヒント6 「社会科の授業6年」明治図書, p. 3

参考文献

- 4) 「新しい社会 教師用指導書 研究編」(2002) 東京書籍, pp. 152~195
- 5) 佐藤 和彦 (1994); 暮らしの歴史図鑑1 「食物の歴史」ポプラ社, pp. 44~47
- 6) 住田 実 (1994); たのしい健康教育の創造と “ふしぎな発見の旅”
東山書房, pp. 79~95